

全国の葬祭業者様・霊柩車運行事業者様への霊柩車・寝台車・棺台などの製造販売。様々な車両のボディーカスタマイズを手がけております。



**株式会社大江車体特装**



霊柩車  
製造販売  
Funeral car



1台1台に  
全ての技術と  
真心を込めて……



OOE SHATAI TOKUSOU

熟練の技術と新しい感性で、  
「送る」にふさわしい霊柩車をお届けします。

私たちの目標は、はたらくクルマ創りで培った技術・知識・心を集約し、  
御提案・製造・御納車・メンテナンス・リノベーションの全ての面に誠実対応し、  
日本を代表する霊柩車メーカーになることです。

一台一台に全ての技術と真心をこめて  
「必要とされる霊柩車」をお届けすることをモットーに、  
お客様に愛される企業として地歩を固めて参りたいと考えております。

【業務内容】

霊柩車の製造販売(洋型・ミニバン型・バス型)  
メンテナンス業務全般(棺台乗せ替え、内装リフォーム 等)  
ひずみ試験業務全般  
改造申請書作成業務全般  
中古霊柩車販売(山形県公安委員会許可 第241010002874号)

株式会社大江車体特装

〒990-0055 山形県山形市相生町8-23 電話番号:023-641-4057 FAX:023-641-9315

# FUNERAL CAR LINEUP

【霊柩車ラインナップ】

## LINEUP 1

### ミニバン型霊柩車(寝台車)

主に病院から自宅や葬祭ホールへ仏様を寝台(ストレッチャー)で搬送する車両。



## LINEUP 2

### マイクロバス型霊柩車

棺と親族が同時に移動できる霊柩車。地方都市での使用頻度が高い車両。



## LINEUP 3

### 洋型霊柩車(リヤオーバーハング延長仕様)

見た目はワゴン車と同等ながら、棺を収納するため後部を30~40cm延長した特別仕様車。ルーフレザーや車内の品のある装飾が特徴。



## LINEUP 4

### リムジン型霊柩車(センターストレッチ仕様)

乗車定員5名を確保したまま、最大2100mmの棺を搭載可能にする車両。4WD車両の改造も可能で、雪国地方特有の錆対策として、シャシ裏に防錆塗装を標準装備しています。



## LINEUP 5

### 車内レイアウト

棺専用のレール構造なので、無駄なスペースや突起物が無くクリアな仕上がりが特徴。オプションで、LED・有機ELライティング、ミラー等を使用した装飾も可能に。





ボディ  
カスタマイズ

Body  
customize



知恵と工夫と  
真心を込め  
真摯に取り組む



OOE SHATAI TOKUSOU

## 地域社会の発展と未来を生み出す はたらくクルマを創造します。

「我々だからできること」

地域社会・人々の生活に密着する、はたらくクルマ創りに知恵と工夫と真心を込め真摯に取り組む。

明るい未来を信じ、仲間を信じ、自分を信じ、みんなで未来につながる

はたらくクルマ創りを進めて参ります。

### 【業務内容】

各種回転灯搭載車

パワーゲート車

各種運送車両

幌車・各種シート特装

公安委員会届出

構造変更業務全般

人力車製造販売

株式会社大江車体特装

〒990-0055 山形県山形市相生町8-23 電話番号:023-641-4057 FAX:023-641-9315

## EXAMPLE OF BODY CUSTOMIZE

【ボディーカスタマイズ実績】

### EXAMPLE 1

#### 荷室用リフト

消防ポンプ専用リフト。電動昇降が可能で、収納はアームごと室内へ格納します。



### EXAMPLE 2

#### 一般貨物用リフト

積載能力は～400Kg。能力・形状・用途は様々なバリエーションがあります。



### EXAMPLE 3

#### 患者輸送車

重度の患者輸送のため、ストレッチャーごと搬送する専用車。



### EXAMPLE 4

#### 荷室カスタマイズ

アルミ製の専用棚を製作・設置しています。目的に応じて専用の棚や収納BOXを製作します(ステンレス・アルミ・木材)。



### EXAMPLE 5

#### ガスボンベ運搬車

LPガスボンベの運搬を目的に架装された車両。昇降用パワーリフトとボンベ固定器具を製作・設置しています。



### EXAMPLE 6

#### 消防車(資機材搬送車)

アルミバン車をベースに、荷室に資機材専用収納棚、後部はパワーリフト、屋根上にはポートが搭載が出来るよう補強してあります。



### EXAMPLE 7

#### 消防車(調査・広報車)

救急車の医療機器を取外し、車内を消防用広報車へ改造し、消防色へ塗装、「消防車」として再登録しました。



### EXAMPLE 8

#### 自主防犯活動用自動車

街の安全、治安維持活動をする車両(通称:青パト)として各自治体で活躍しています。



### EXAMPLE 9

#### 道路維持作業車(トラック)

道路の点検、修繕及び維持活動のため、国土交通省指定の塗装(黄色+赤白ライン)をし、製作しています。



### EXAMPLE 10

#### 道路維持作業車(ダンプ)

道路の修繕及び維持活動のため、塗装・回転灯搭載・ダンプ枠シートを取付、製作しています。



対談  
Conversation

二人だから  
作りだせる  
クルマと未来がある

OOE SHATAI TOKUSOU



ooe haruhisa

大江車体特装、創業1862年。人力車のメーカーとして始まり150年以上、歴史の重みを常に感じている。人力車づくりから自動車黎明期の幌製造、そして内装全般から車体架装と変遷を繰り返しながら、いよいよ我々で5代目ということだね。



ooe yuji

子供の頃は、自宅と同じ敷地内ある工場から、昼夜、土日もなく、木を切る音、鉄を叩くハンマーの音、溶接の音が常に鳴り止むことはなかった。バブル期に向かう一番いい時代だったから、父(代表取締役、大江栄治)も朝から晩までずっとツナギ着て、平日も休みも関係なかった。



ooe yuji

しかし、具体的な仕事の内容は、お互いに大学を卒業する直前まで分からなかった。二人とも中学生からずっと体操競技漬けの毎日で、国体やインターハイの強化合宿や試合遠征など家にいる時間も、家業を知る余裕もなかったからね。



ooe haruhisa

それぞれ、家業とは別の道に進もうとしていた。それが、大学での最後の全日本が終わった夜に、ふと思って「これまでの体操人生を支えてくれた親に、初めて感謝の気持ちを伝えよう」と電話した。そのとき、なぜか電話に向かって一人で号泣してしまった。そして決めた。親の仕事を自分がやろうと。逆に、体操をやっていない

かったら、両親への強い感謝や、跡を継ごうとは思わなかったかもしれない。



ooe yuji

偶然にも同じ夜に少し遅れて電話をし、同じように泣いてしまった。母は電話の向こうで「あなたたち、同じこと言ってる」と笑っていた。ともに入社したのは、専務からの「自分だけでなく2人じゃないの意味がない」という一言。なぜ2人じゃないの意味がないのかは分からなかったけれど、もし自分が必要とされるならそうしようと。



ooe haruhisa

はっきりとした記憶はないが、そうか、言ったのかもしれないね。根拠はまったく何もなかった。自分だけでなく2人で継ぐことが大事な気がしたし、2人ならなんでもできるという感覚、直感だったんだろうと思う。



ooe yuji

それぞれが入社後4年間の修業を経て、専務は内装、自分は外装と、現場に集中した。すると分かってくることもある。特装の仕事は、社会性が高く、産業のニーズに直結しているから、時代の変化を直に受けるよね。我々が入社した10年前、そして5年前、3年前と今は、全く内容が違ってきている。その変容を肌で感じる。新しい事業の方向性やプランを見出すのが自分、専務はそれをいい悪いではなく、すべてを肯定して後盾、推進力になってくれる。結果とし

てそれが受注にも繋がり、毎年変化しながら少しずつでも会社の成長につながっていると実感する。



ooe haruhisa

肯定とか「信じている」というレベルでないのは確かだね。プランやアイデアは、絶対に夢物語に終わらせない。資金、組織、環境…実現するには何が必要かを考え整理し、準備するのが自分の仕事。いつも、というか最初から、話し合っただけでもなくお互いの役割は明快。

なんだろうな、「2人で仕事をやらなきゃ意味がない」と伝えたときは抽象的なイメージでしかなかったと思う。でも今は違う。1人では残念ながらオリンピックに行けなかったけれど、2人なら世界へ行けるんじゃないか、勝負できる、そう思っている。



ooe haruhisa

プランやアイデアを形にする。今は、新規事業として「大江車体特装オリジナル霊柩車第1号車」を来年間違いなく完成・デビューさせることに全精力を傾ける。これは東北初のチャレンジ。架装業界の現状や今後の市場予測も含めて、これからの社会や地域の方々のために、我々が持っている技術で何が出来るか。現時点での結論が、霊柩車への取り組み。

自分もこの方向性を決める裏付けのため、今後どんな車両が必要とされかを徹底的に調べた。その結果が霊柩車だった。社会的に製造する使命を請け負ってやれるのが自分たちだと思った。



ooe yuji

そうだね。今いちばん会社と世の中のニーズが合致するのが霊柩車だということ。どんな特装車でもすさまじい数の項目におよぶ運送車両法がからむ。たった一台を作るためにも、その法律の中で架装を行わないナンバーを取得し公道を走れるように出来なければ意味がないからね。だからこそ、霊柩車に関する法律もすべて熟知している私たちが取り組む意義がある。

自分がそれを肌で感じはじめたのは10年前から。福祉車両のニーズの高まりを日々の業務の中で目の当たりにしながら、全国各地を飛び回り、霊柩車のメーカーを訪ね、展示会に通い、徐々にコネクションも育って、技術的にも取り組めるところまで来たという自信と、将来への展望が見えてきた。



ooe haruhisa

まさに10年ごしのプランが実現に向かっているという実感。技術的なことは任せておけば、なんとかなる信頼も自信もある。問題はやはり法律や強度計算など、周辺環境をクリアすることだった。それがこの10年で可能性がようやく見えてきたということだね。協力体制、コネクションがタイミングよく繋がった。クリアになった。それでGOだ。

同時に、事業をすすめるには設備投資もかかるから、ありとあらゆる

補助金に事業計画を申請し、こちらもほぼ認可いただいた。認可を受けての事業、それは、社会的に必要なだと認められたことの証だから。



ooe yuji

これまでの霊柩車を変えたい。概念を覆したいね。名前は霊柩車でも、色や形、ライティングなど、単に、暗い、寂しい、冷たいイメージを一新して、この車で世の中を変えたいという意識かな。



ooe haruhisa

人生の最後を乗せて走る大切な儀式の一部として、ご遺族の要望や気持ちに応えられる車両を作る自信は持っている。そして10年以内には、大江車体特装のアイデアが搭載された車が日本全国を走るときが来るだろうと。日本に限らず世界に向かいたい。



ooe yuji

そうだね。そのためにも、二人の共通意識として、車業界の古い体質、資質を変えたい。スタッフの人間力をあげよう、それが会社力、組織力のアップに直結する。そうすれば技術も仕事もついてくる。社員全員で繰り返し話し合い、ベクトルを合わせながら進んでいきたいね。



ooe haruhisa

家業から企業へ、ということ。経営側に立って会社を客観的にみるようになり、自分たちが生き残っていくために何が足りないかがハッキリわかった。経営方針や理念、役割を数字と言葉ですべて明確に、要するに経営体質の見直しを計って4年目、ようやく企業としての情報発信ができるようになってきた。

私たちの仕事はすべてオーダーメイド。地域社会の生活や命を守り、暮らしに密着した車を作らせてもらっている。お客様の要望に真摯に応えていくこと、それが住みよい社会、未来をつくっていく。そして会社やスタッフの自らの未来に繋がっていくと。



ooe yuji

まさに同じ思い。いつも思うのは、創業からずっと同じ場所で150数年の間、仕事を続けられたのはすごいことだと。地域の方々の理解や協力があってこそ、この事業、会社が消えずにこれた。これだけは忘れない。だから、我々がはたらく車を世の中に出し続けることで、ご近所や地域、山形市の活性化に繋がっていく、そんな恩返し、下支えを続けながら先に進めればと思う。



## スタッフ インタビュー

Staff  
Interview

自分自身を磨き  
チャレンジする心が  
お客様の満足に伝える

### OOE SHATAI TOKUSOU

管理部管理課 庶務係

## 白田 沙織

Shirata Saori

私が今担当させていただいているのは、伝票発行処理業務全般、売上仕入台帳の記帳、経理業務全般です。その他各種書類作成も行います。経理の仕事は会社の根幹をなす柱のようなものです。

業務上、月末や月初めは作業のボリュームが多くなり、切羽詰まってしまう場合もありますが、事務スタッフ、作業スタッフ全員がアットホームな雰囲気です。仕事ができる環境ですので、それが「がんばろう」という心の支えになることも多いです。

作業スタッフのように、直にお客様の役に立てることは少ないですが、他社様の工場やディーラー様の前を通りかかったりすると、ついどんな車が入っているか、どんな作業風景なのか、ついつい気になりますね。また、休日に弊社で手がけさせていただいた車両を見かけると、とても誇らしくて過剰反応してしまいます。

事務業務のほか、来社されたり電話をいただいたお客様への対応も大事な仕事のひとつです。居心地のよい、また来たいと思っていただけるような事務所づくりを心がけています。そして、弊社に依頼いただけるほんの少しのきっかけになれば嬉しいです。

まずは、今よりもさらなるスキルアップが目標です。効率よくスピーディでもっとスムーズに心を掛けて日々仕事をしています。それが会社全体の力になることだと思っています。

生産本部シート特装課

## 古沢 勇二

Furusawa Yuji

山形県内に同業がない独特な架装という仕事、その魅力に惹かれて入社させていただきました。子どもって皆同じだと思いますが、小さい頃からスポーツカーやはたらく車など自動車全般が好きでした。その仕事に関わっている、とても幸せなことだと思っています。

シート特装は、幌の製作、シートや内装の張り替えなどが主な業務です。幌で大きいものと、重量はケタ違いに重くなり、扱いの難易度も増します。また、お客様の用途やご要望に合わせての各種生地選定も使い勝手に大きく影響するので重要、独自の経験とノウハウが生かされています。

扱うのが柔らかい素材で、対象も不規則に変化する立体形状ですから、最終的にいかにフィットさせるかが最も難しく、腕を問われるところです。逆に、採寸時から生地伸びを計算に入れ、張り具合もぴったりと納まったときは楽しいですね。

求められる形状が複雑になるほどミシンがけによる縫製作業なども細かい作業が増えていきますし、ミスが許されなくなるので、神経を使います。それでも、高い技術力を備えた先輩社員の方がいるので、技術的なアドバイスも含めて心強く、自分なりに伸び伸びと仕事ができます。さらに力をつけて、本革シートの縫製や、内装の総張り替えなどにもチャレンジしていきたいと思っています。



## スタッフ インタビュー

Staff  
Interview

自らの創造力で  
特装の未知の可能性を  
広げていく喜び

### OOE SHATAI TOKUSOU

生産本部ボディー特装課 主任

## 加藤 裕也

Katou Yuuya

ボディー特装の仕事は、工程だけを見れば単純です。寸法を取り、材料をカットし溶接、塗装、最後に組み立て。すべてお客様の要望を聞き取りそれに応えていくわけですが、どれもが既製品ではなくオーダーメイドであること。長方形に見えても、1台1台は台形にゆがんだり、曲線があったり。これらの複雑な造作に必要な技術を積み重ね、過去の案件をもとにその都度工夫や応用を加える。そこに難しさがあり、面白さもある。夢中になれるところでもあります。

大江車体特装には独自に開発した技術も多いのですが、他社では不可能な架装、またはこれまで自社でも経験のない仕事に対しても製作可能にしていくこと。それが私たちの社会的役割だとも思っています。そして、お客様に満足していただき、さらに良いものづくりをお届けすることで、次回も指名してもらえたら一番嬉しいです。

実は、私の祖父は仏壇の金具職人で、幼い頃からその仕事ぶりを見たり、手伝いの真似事をするのが大好きでした。異業種からの中途入社で、技術的ことは全く素人でしたが、ものづくりの楽しさや魅力は染みついていたのだと思います。一つとして同じものがない仕事、完成車を見るお客様の笑顔がなによりの喜びです。様々な未知の素材にもどんどんチャレンジしていきたいと日々情熱を傾けています。

生産本部ボディー特装課 係長

## 柴橋 基章

Shibahashi Motoaki

「職人」として自分の手でなにか作り出していきたいと思っていました。それが、大江車体特装に入社した動機です。基本的に車が好きでしたし、実家は設備関係の仕事で、小さい頃から作業の手伝いもしていましたから、工具の扱い、溶接機械など馴染みもありました。もちろん、技術的なことを本格的に学んだのは入社後。今後も常に新しいことにチャレンジしていきたいと思っています。

現在は、新規事業のため「オリジナル霊枢車第1号車」の開発に携わっています。車体を一度切断し車長を伸ばす必要があり、質感やボディラインの調整はもちろん、剛性確保のための補強など難題が山積みです。東北初の新しい試みなので、完成車のイメージめがけて、徹底した試行錯誤の繰り返しです。安全に動けばいいのではなく、いかに仕上がりの完成度を高めるかが問われています。

お客様に満足いただける仕事を提供することはあくまでも最低ラインであって、それ以上のクオリティを自分自身に厳しく課することが大切だと考えています。つまり、自分が納得するレベルをいかに高いところに置か。人それぞれやり方は違うかもしれませんが。若いスタッフにも伝えていることですが、まず自分で見て考える、次にやってみる。そのうえで相談する。失敗を恐れずに主体性を重んじるのは、大江車体特装の社風。それだけに達成感、やり甲斐も大きいのです。



会社概要  
Company profile

技術と感動を共有し  
お客様とともに  
社会のために

OOE SHATAI TOKUSOU



代表取締役専務  
大江 晴久

代表取締役  
大江 栄治

取締役本部長  
大江 裕二

ごあいさつ

人力車づくりから始まった歴史は、乗用車架装という業種へ発展するまでになりました。先人の技術と、知恵と、心が脈々と受け継がれています。「我々だからできること。」地域社会・人々の生活に密着するはたらくクルマ、命を乗せて運ぶ安全なクルマ創りに真摯にひたむきに取り組む。情熱ある仲間と、新しい技術・新しい知恵を生み出し、これまでと変わらぬ「真心」を込めたクルマ創りが、必ず新しい「未来」運びます。明るい未来を信じ、仲間を信じ、自分を信じ、みんなで未来につながるクルマ創りを進めて参ります。

沿革

- 1862年(文久2年) ●初代 大江甚六 現在地で人力車製造・販売に着手
- 二代目 大江甚七 自動車産業に進出  
「大江幌内張店」自動車内張業に転業
- 昭和38年 ●三代目 大江甚太郎 大江幌自動車工業株式会社に改組  
代表取締役役に就任  
自動車改造部門を新設
- 平成3年 ●四代目 大江栄治 株式会社大江車体特装 名称変更  
南第2工場を新設  
特装车・福祉車両部門を新設
- 平成28年 ●五代目 大江晴久 代表取締役就任  
洋型霊柩車開発事業部を新設  
霊柩車専用工場を新設

会社概要

会社名  
所在地  
電話番号  
FAX  
メールアドレス  
ホームページ  
事業内容

株式会社 大江車体特装  
〒990-0055 山形県山形市相生町8-23  
023-641-4057  
023-641-9315  
info@tokusou.co.jp  
www.tokusou.co.jp  
自動車架装業  
自動車特装・架装 はたらくクルマ製造・改造・修理・販売  
霊柩車製造全般 構造変更計算書作成一式

